「（仮称）町田市都市づくりのマスタープラン」策定に関する特別委員会　中間とりまとめ

１．「2040 年を見据えた現状認識」と「これからの町田市の都市づくり」

現在の町田市の魅力

「都市的なにぎわいや活動」「豊かなみどり・自然」「居心地の良い住環境」がバランスよく身近にある

●町田市の最大の魅力は、「都市的なにぎわいや活動」「豊かなみどり・自然」「居心地の良い住環境」がバランスよく身近にあるまちであること。

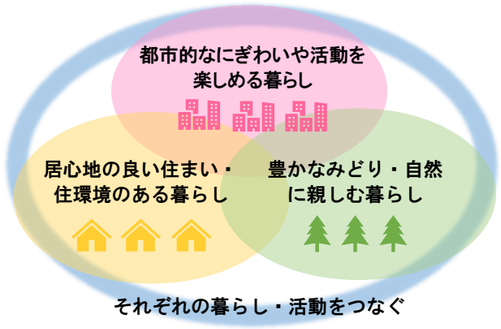
●それぞれの要素が各地域で濃淡をもって重なりあい、地域独自の魅力を創り出している。

これからの町田市の都市づくり

都心のベットタウンだけではない、町田ならではの魅力ある暮らしが楽しめるまちへ

●社会状況の変化や町田市の特徴と可能性を踏まえて、町田市の魅力ある**「都市的なにぎわいや活動を楽しめる暮らし」「居心地の良い住まい・住環境のある暮らし」「豊かなみどり・自然に親しむ暮らし」を活かし・伸ばす。**

●**それぞれの暮らしに、より近く、より手が届きやすくなるよう「つながり」をつくり、何かをやりたいと思ったときに気軽に実現できる暮らし**ができる都市を目指す。



社会状況の変化

社会状況の変化をこれからの町田市の都市づくりに向けて対処すべきベクトルとして捉えると

●時間の使い方が変わり、町田市内が活動のフィールドになる

・ICT 技術の進化や働き方改革、学び方の変化等により都心への通勤通学が減り、**町田市内で過ごす時間が増える**。また、市外に働きに出ていた人材が退職し、仕事に費やしていた時間を余暇や地域活動などに充てるようになり**町田市内で活動する人が増えるなど、時間の使い方が変わる**。

●住まい周辺の環境に目が向けられるようになる

・時間の使い方が変わることで住まいの周辺で過ごすことが多くなり、**住まい周辺の環境に目が向けられる**ようになる。例えば、ICT 技術の進化等で「買い物」「仕事」「学び」「娯楽」が場所を選ばず出来るようになる一方、近くに意識的にコミュニケーションをとる場や機会が求められるようになる。

●移動がしやすくなるとともに、移動の目的がより多様になる

・自動運転、シェアサービス、スモールモビリティ、MaaS（注 1）など、移動に関する新たな技術とサービスが一般化し、**移動がしやすくなる。**また、都心に通勤するような移動は減少する一方で、余暇や交流のための市内の移動が増えるなど、**移動の目的が変わり多様化する**。

●価値観やライフスタイル・暮らし方が更に多様化する

・健康的な暮らしへの志向が強まるなど、市民のライフスタイルや価値観はさらに多様化する。

「働く・学ぶ・交流する・憩う・楽しむ・体験する」など、
町田市民が市内で多様で充実した時間を過ごす（活動する）ことに対して関心が高まる

〇新型コロナウィルス感染症の感染拡大は、時差出勤やテレワークの急速な普及等をはじめとして、現在の市民生活に大きな影響を及ぼしており、今後のライフスタイルや価値観にどう影響するか注視していく必要がある。
＊公園や広場など、使いやすく質の高いオープンスペースに対する需要が高まる。
＊開放的な空間で適度な距離を保てる生活環境や自宅周辺の自然環境が重視されるようになる。

町田市の特徴と可能性

社会状況の変化を踏まえ、町田市の都市の現況をこれからの都市づくりに向けた可能性として捉えると

●市内で活動する市民が増えることを、地域の主体的な街づくりに繋げる契機に

・都心から 30～40km 圏の郊外都市として 1960 年代から急激な都市化。都市化に伴い人口が流入し、各地域で年齢構成が偏ったまま住宅地が成長・成熟。早期に開発された住宅地や大規模集合住宅団地では高齢化が顕著。

⇒退職や働き方の変化により市内で活動する時間が増える市民が、自らが暮らす地域に注目し、日々の暮らしを楽しく豊かにするための様々な街づくり活動に取組む契機として捉えることができる。

●市内にある大小さまざまなみどりは、多様な目的で活用することで日々の暮らしがさらに豊かに

・市内北部を中心にしたまとまったみどりが存在し、住宅地内には公園・緑地・農地（生産緑地）がある。市内には規模や特徴が異なる様々なみどりが存在。

⇒市民のライフスタイルや価値観が多様化する中で、みどりの特徴にあわせて活用し、活動のフィールドとして柔軟に利用することで、日々の暮らしを楽しくすることができる。

＊住宅地に間近な公園や農地は、日々の生活の中で使う心地よい居場所に
＊まとまったみどりは、その価値を理解し積極的に関わりながら守り育てる

●モノレール整備等を契機として捉え、ライフスタイルに適した持続可能な交通網に

・多摩都市モノレール、小田急多摩線の延伸計画があり、隣接市ではリニア中央新幹線の開業予定。交通基盤が大きく変化。

⇒ライフスタイルの変化や新技術等により、今後市民の移動のあり様が大きく変わる中で、モノレール整備等は市民の移動を支える持続可能な交通網を再構築していくための重要な契機として捉えることができる。

●住まい周辺の環境に対する関心を、地域の災害リスクへの関心の高まりに

・起伏に富んだ地形が多い町田市は、土砂災害警戒区域が多く分布。大雨による浸水予想区域も境川や鶴見川沿い等に広がる。近年の気候変動等により災害リスクが高まり、これまで以上の備えが必要に。

⇒住まい周辺の環境に目が向けられるようになることで、地域の災害リスクに対する関心も高まり、市民が地域を理解しながら積極的に災害に備えることにつなげられる。

（注 1）Mobility as a Service の略。公共交通か否かを問わず、あらゆる交通手段を情報通信技術で統合し、出発地から目的にへの移動をより適切で継ぎ目なく便利にすることを目指す新たな移動の概念。

2．都市づくりの視点・考え方

町田市を取り巻く社会状況の変化や町田市の特徴や可能性を踏まえ、「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」の「なりたいまちの姿」を実現するために、都市づくりにおいて備えておくべき基本的な視点や考え方。

●市民が活躍できる舞台として、都市の空間や機能を整える

・市民の時間の使い方が変わり、市内が活動のフィールドになることを踏まえて、「働く・学ぶ・交流する・憩う・楽しむ・体験する」などの多様な活動が、思ったときに気軽に実現できる空間や機能を整える。

●地域の資源を上手に活用し、新たな価値を生み出す

・ライフスタイルの変化や地域ニーズにあわせて、空き家、空き地、公園、農地など、今ある地域の資源を視点を変えて上手に活用し、新しいまちの価値を生み出していく。

＊空き家・空き地は地域の居場所に

＊住宅地内の農地は子どもが土や緑に親しんだり、大人が気軽に農に触れられる空間に

＊公園は憩うだけでなく、仕事もキッチンカーで買い物もできる場所に

・水とみどりに恵まれた環境を活かしながら、暮らしの質をさらに高めていく

●ライフスタイルや価値観の変化を受け止められる多様性・多機能性があるまちに変える

・今後ますます多様化するライフスタイルや価値観を、まちとして受け止めることができ、例えば、ライフスタイルに合わせて市内で「ちょうどいい住まい」が選択できるような、多様性や多機能性のあるまちに変える。

●市民のココロとカラダを育むまちをつくる

・高齢化が進むなかで、町田市の特徴を活かしながら健康的な暮らしを送ることができるまちをつくる。

・市民が町田市に愛着を感じ、誇りをもって「暮らしたい」「暮らし続けたい」と思えるようなまちにする。

●市民が安全で快適に暮らし続けていくために必要な都市の基盤・環境を整える

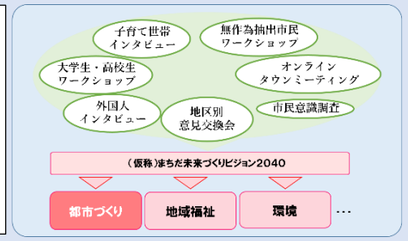
・大雨や地震など広域化・激甚化する災害及び感染症などのリスクに対する都市づくりとしての対応、生活に必要なインフラの整備、地球温暖化の緩和に向けた環境負荷の少ない都市への取組みなど、市民が安全に暮らし続けていくために必要不可欠な取組みは、すべての施策の根底に共通する考え方として着実に取組む。

・自動運転技術や MaaS などの新技術や、「シェア」をはじめとした新たな暮らし方など、時代の変化にあわせて最適な暮らしが選べるように都市基盤を整える。

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」の検討と市民意見の把握

「(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン」は、現在策定中である市の次期基本構想・基本計画「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」に基づく都市づくり分野の計画として、相互に連携しながら検討を進めている。

基本構想及び基本計画の検討では、地域住民とワークショップなど様々な意見交換の取組みを実施し、都市づくりに関する意見も含め、様々な市民の想いを把握している。



市民の想いを踏まえて 2040 年のなりたいまちだの姿を検討

様々な意見交換の取組みを通して得た「市民の想い」や、市議会・行政経営管理委員会の意見をもとに、市民ワークショップや長期計画審議会等を経て、「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」の「まちづくりの方向性」と、その先にある３つの「なりたいまちの姿」を設定した。

市民意見の中には都市づくり分野に関する意見も多く含まれており、それらを踏まえて、将来都市像を検討した。

なりたいまちの姿①

ここでの成長が
カタチになるまち

まちづくりの方向性①

子どもと共に成長し、
幸せを感じることができる

市民が望むまち①

未来に向けた人口減少の加速を見据え、子どもたちがこの先も住み続けたいと思えるよう、愛着や誇りを感じられるまちであることが重要。そのため、子どもが自分の成長を実感できるよう、大人は協力して地域で子育てし、自分も成長する。このように、大人も子どもも共に成長し、幸せを感じれるまちになると良い。

子どもにやさしいまちは高齢者や障がい者などみんなにやさしいまち。

なりたいまちの姿②

わたしの”ココチよさ”
がかなうまち

まちづくりの方向性②

ちょっといい環境の中で、
ちょうどいい暮らしができる

市民が望むまち②

サテライトオフィス等による職住近接、どこに行くにも快適な交通手段、仕事帰りにふらっと買い物や食事を楽しめる魅力的なお店など、日常に＋αしたちょっといい暮らしを、思い立った時にすぐ実行でき、ちょうどよく手に入る。

町田のもつポテンシャルをさらに磨き、住む人、働く人、学ぶ人、近隣住民など関わる人がワクワクできるまちになるとよい。

なりたいまちの姿③

誰もがホッと
できるまち

まちづくりの方向性③

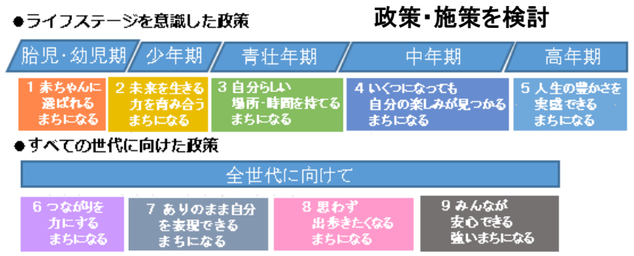
人と人とがつながりながら、
多様な価値を尊重し合うことができる

市民が望むまち③

子どもから高齢者まで、人と人がつながり、自然と支え合いができるまちはいつの時代でも魅力的。一方で、ライフスタイルは時代とともに多様化しており、人と人のつながり方も日々変化するもの。

町田には性別、年齢、国籍、信条などの点で様々な人が暮らしており、それぞれが互いに認め合い持てる力を発揮することができる、そんなまちにずっと住み続けたいと思える愛着が生まれる。

2040 年のなりたいまちだの姿を実現すべく政策・施策を検討



「なりたいまちの姿」を実現するため、何を目標に、どのようにまちづくりを進めるかを体系的に示す「(仮称)まちづくり基本目標」の検討を進めている。

市民一人ひとりが自分事として捉えられるよう、ライフステージを意識した政策と、すべての世代に向けた政策を検討し、多様なライフスタイルを支え、一人ひとりが夢を実現でき、輝けるまちをつくるための計画として策定する。

3． 2040 年の暮らしのイメージ（町田市全体のイメージ）

みんなの“したいこと”で人とまちがつながり、
わたしの“ココチよさ”をかなえます。

2040 年には様々な技術が進化し、働き方、学び方、買い物や移動の方法等々、人々のまちでの暮らし方が大きく変わっていると予想されます。

未来の町田は、新しい働き方や多様なライフスタイルに対応し、町田ならではの活動の場や暮らしを楽しめる環境が整っています。みんなが街の魅力を満喫して**「ちょうどいい」**暮らしを送っています。

未来の「まち」は…

- ●多様な交通手段の中から自分にあった方法を選んで、目的地まで快適に移動が出来ます。多くの人が市内への外出を楽しいと感じており、まちなかで活動する人が増えています。
- ●身近な公園や農地などのオープンスペースを柔軟に使える環境と、多様な活動を推進する仕組みが整っています。多くの人が身近なオープンスペースで思い思いに活動し、日常的にまちを使うことで地域への愛着が醸成されています。
- ●多様な選択肢から自分にあった住まいや働き方が選べます。市内だけでなく市外からもライフステージに合わせた住み替えが進み、多世代交流・共生のまちが形成されています。
- ●地域の特色に合わせたみどりの空間づくりにより、多彩で豊富なみどりが「まち」を象徴する魅力の一つに育っています。多くの人がみどりの中で日常的に心地よい時間を過ごし、みどりを馴染み深い場所と感じています。

3．2040 年の暮らしのイメージ（市内各所のイメージ）

社会状況の変化や町田市の特徴を踏まえながら、2040 年に向けて町田市内の各所で展開されている暮らしのイメージを整理

「自由さ・気楽さ・便利さ」を実感しながらやりたいことにアクセスできる暮らし

想定されるエリアの例：拠点駅の周辺

『出歩きたくなる・歩きやすい』

○駅周辺にはオープンスペースに寄り添った商業空間や、雑多なエリアの「ワクワク感」など魅力が溢れ、思わず出歩きたくなる。

○「歩く空間・集う空間」が優先され、自家用車の乗り入れがないウォーカブルなまちは、早く移動したい人、ゆったり歩きたい人のどちらにとっても快適に歩きまわれる。

○電車・モノレール・バスだけでなく、グリーンスローモビリティ(注2)やシェアモビリティなどにも不便なく乗り継ぎが出来る。

出歩きたくなる魅力にあふれ、快適に歩ける駅前空間

近隣や沿線住民が働いているまちなかのワークスペース

『「まちだで働く幸せ」が感じられる』

○今日はまちなかのワークスペースで。今日は川辺で。公園で。今日働く場所（スペース）を自由自在に選べる。市民も沿線の人たちも拠点駅に行けば楽しくワークでき、新しい出会いからの発想も生み出せる。

○都心へ毎日通う必要のない人や、地域がビジネスフィールドの人にとって、使いやすく、質の高い、心地よい環境がある。

『公園はやっぱりまちの暮らしの中心』

○公園やオープンスペースは、なんとなく憩いに行くのはもちろん、やりたいことがある人にとってはいろんな活動が展開できる舞台にもなる。

○公園に向かう通りには、文化や商業などのさまざまな魅力がまちなかから広がり、公園までにじみ出している。公園からは、みどりがまちなかに入り込んでいて、通りそのものが心地よく楽しい。

憩いや団らんなど思い思いの使い方ができる公園や公園通り

都市的でシンプル･コンパクトに暮らせる駅近住宅

『買い物の場所だけではない、住んでもいいじゃない』

○便利な駅近には良質な賃貸住宅や分譲住宅が揃い、まちの文化に親しみながら、持ち過ぎずコンパクトに暮らせる。

○電車・モノレールに乗って都心に通勤し易く、週末には健康づくりやリフレッシュのために北部丘陵エリアの大規模なみどりや、箱根の温泉へも気軽に足を伸ばせる。

○若い世代はもちろん、子どもが巣立ち世帯人数が少なくなったシニアも、郊外の広い戸建て住宅から、ちょうどよい住まいに住み替えて、慣れ親しんだ地域で住み続けられる。

人やモノなど地域全体がつながり合い、充実した資源を時代に合わせて賢く使う暮らし

想定されるエリアの例：駅や主要な通り周辺、生活を支える機能を持つ団地周辺

『地域と人がつながって資源を上手に使える』

○周辺から多くの人が集まる特性を活かし、充実している資源を地域全体で効率的・効果的に使って便利な暮らしができる。

（例えば団地では「シェア」でつながる）

①**住まいのシェア**：学生、独立したての若者が集まって住む。生活支援サービスを充実しながら独居感覚で一緒に暮らせる。

②**時間のシェア**：団地住民同士に留まらず、地域の人が集まる場所や仕掛けがあり、コミュニティとして一緒に過ごせる。

③**モノのシェア**：団地がモノのシェアのプラットフォームになり、地域住民や市民全体が活用できる。

④**移動のシェア**：いくつもの新しいシェアモビリティが活躍し、地域内外を気軽に便利に移動できる。

⑤**仕事・スキルのシェア**：多様な人が集まる団地で多様なスキルが蓄積され、それが披露されることでマッチングされている。

学生たちが暮らしている団地のシェアルーム

高齢者の買い物を代行するコミュニティジョブ

『コミュニティジョブで地域のくらしがもっと楽しくなる』

○買い物代行やベビーシッター、公園や広場の管理、団地の管理など、地域の中にボランティアではない小さな日常のジョブがたくさんあり、例えば週２～３日だけ働くなど、時間を柔軟に活用して地域の中で働ける。

『地域の拠点からあちこちにお出かけできる』

○広域の移動から地域内の移動まで、日常のさまざまな移動に対応できるモビリティが集まり、地域の人のお出かけを支えてくれる。

さまざまな移動に対応したモビリティ

住民が自由に使えて交流しているコミュニティスペース

『生まれ変わるまちの新たな暮らし』

○団地から生まれ変わったまちは、若年から高齢者まで多世代がコンパクトで便利に暮らせる。まちの中のオープンスペースやサービス施設では、周辺地域の住民同士が交流している。

○通勤通学に便利で、子育てもしやすい、バランスの良い住まい。広さや間取り、賃貸と分譲など様々なバリエーションから住まいを選べる。

○安全・快適に暮らせるシニアサービス付きの住まい。家族の訪問やまちへの外出も便利で安心して住み続けられる。

（注 2）時速 20km 未満で公道を走る 4 人乗り以上の電動の乗り物。

3．2040 年の暮らしのイメージ（市内各所のイメージ）

ゆとりある住まいやまちを自分らしく使って日常を楽しむ暮らし

想定されるエリアの例：低層住宅地

『日常的に使える心地よい居場所に囲まれている』

○自動運転の移動販売車やキッチンカー・ちょい飲み屋台が定期的にやって来る公園がある。スーパーへの買い物のついでに立ち寄ることができ、毎日の暮らしに彩りを添えている。

○公園や広場では、地域住民の手作りプレーパーク、落ち葉で焼き芋、デイキャンプなど、子どもたちがやってみたいと思ったことが実現できて楽しく１日が過ごせる。

○身近な農地は、野菜づくりを楽しめるだけでなく、採れた野菜でバーベキューや収穫祭などのイベントも企画して、仲間と１日楽しい時間が過ごせる。

○通過交通の少ない住宅地内の道路の一画を、週末の時間を区切って「歩行者天国」に利用。道路が子どもたちの遊び場や井戸端会議の場に変わり、新しいコミュニケーションが生まれている。

公園にやってきて暮らしを彩るキッチンカー

採れた野菜でバーベキューなど楽しめる農地

子どもの遊び場になる空地･道路などのオープンスペース

ゆとりある住まいの快適な仕事空間

『時間を有意義に使える「職住融合」の暮らし』

○自宅の一室に仕事の空間を確保し、平日の半分はテレワークで作業。ちょっとした対面打合せや商談など、自宅では出来ない用事は近所のお店で済ませられる（多機能なコンビニなど）。空いた時間を使って余暇を楽しみ、仕事もプライベートも充実した生活を送っている。

『身近な自然を感じながら健康的に暮らせる』

○住宅地の周辺にある斜面緑地や河川沿いは、お気に入りの散歩道。体力づくりにも気分転換にも最適な環境を存分に活用し、健康的に暮らすことができる。

○ゆとりある敷地を活かし多様なモビリティに対応した住宅があり、コンビニ・スーパー・集会所などは、シニアカーや電動車いすのまま利用できる。地域を離れる時もバス停にはスモールモビリティ用の駐車スペースがあり、安心して移動できる。

快適にランニング･ウォーキングが出来る河川沿いの道

地域のみんなが気軽に集まれるコンビニ内のコミュニティスペース

『自らすすんで取組む住宅地のマネジメント』

○地域住民が協力してルールを作った、野球やサッカーなど自由にボールが使える公園では、子どもたちが思い切りスポーツを楽しんでいる。

○メインストリートにある空き店舗を使ったコミュニティカフェでは、地域のみんなが気軽に集まって交流を楽しんでいる。

地元で育てるみどりや農でみんながワクワク輝く暮らし

想定されるエリアの例：市街化されていない丘陵地とその周辺

『里山の農やみどりがもっと身近で馴染みあるものになる』

○歴史風土が守り･引き継がれた、里山の農やみどり、水辺など、象徴的な風景が身近にある生活がみなにとって馴染みある暮らしと感じられている。

○市内各所から小中学生が集まり、田植え･稲刈り･炭焼きなど、里山の環境を活かした体験ができ、町田ならではの学びの場で子どもたちの心と体が健やかに成長する。

子どもたちが学ぶ場として訪れる里山

地域内のレストランなどに運ばれる地場野菜

『農やみどりに関わりたい人の思いが実現する』

○援農ボランティアや市民農園で汗を流したり、農業研修農場で学んだ技術を新規就農者として活かすなど、さまざまな形で農に関わりたいという思いが実現されている。

○地元野菜が地域内のレストランや小売店舗などで手に入ったり、農を通して農業者とふれあうなど、地元野菜とのつながりが健康的な暮らしにつながっている。

○間伐材を利用した木材加工品の制作や地域の木材等を利用したイベントに参加することで地元の木のぬくもりを感じている。

『地元のみどりの中でココロとカラダが健康になれる』

○自然環境を活かしたスポーツやレジャーを楽しむことができるフィールドがつくられるなど、さまざまな目的にあわせてみどりに関わる人が増えている。

○民家を再利用した仕事の場がつくられ、みどりを間近に感じながら気持ちよく健康的に働くことが出来る機会が増えている。

フットパスやマウンテンバイクなど様々な活動が行われている丘陵

地域資源を活かす暮らしを通した住民のつながり

『農やみどりに包まれた環境で住み続けられる』

○地元で暮らしてきた人たちが、新たに住まう人たちとともに、地域資源を有効に活用しながら、地元への愛着を持って住み続けている。

○「地域の農やみどりを守る」「歴史や文化を次世代に引き継ぐ」といった思いを持った人が地元に住まいながら活動している。

4．今後の検討の方向性

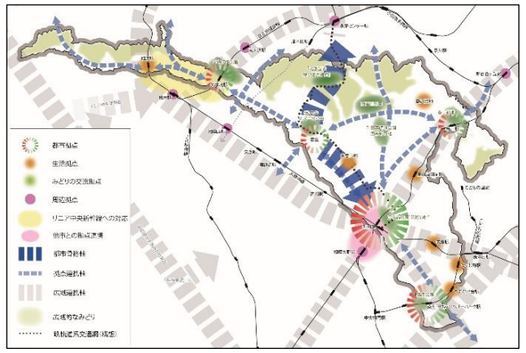
全体ビジョン編

●都市の骨格構造の検討

・2040 年を見据えた「暮らしのイメージ」を踏まえて、町田市の将来の都市の骨格構造について整理する。

●都市づくりの骨格的な施策を分野横断的に検討

・暮らしのイメージ及び町田市の将来の都市の骨格構造を踏まえて、町田市の都市づくりとして取組む骨格的な施策を分野横断的に整理する。

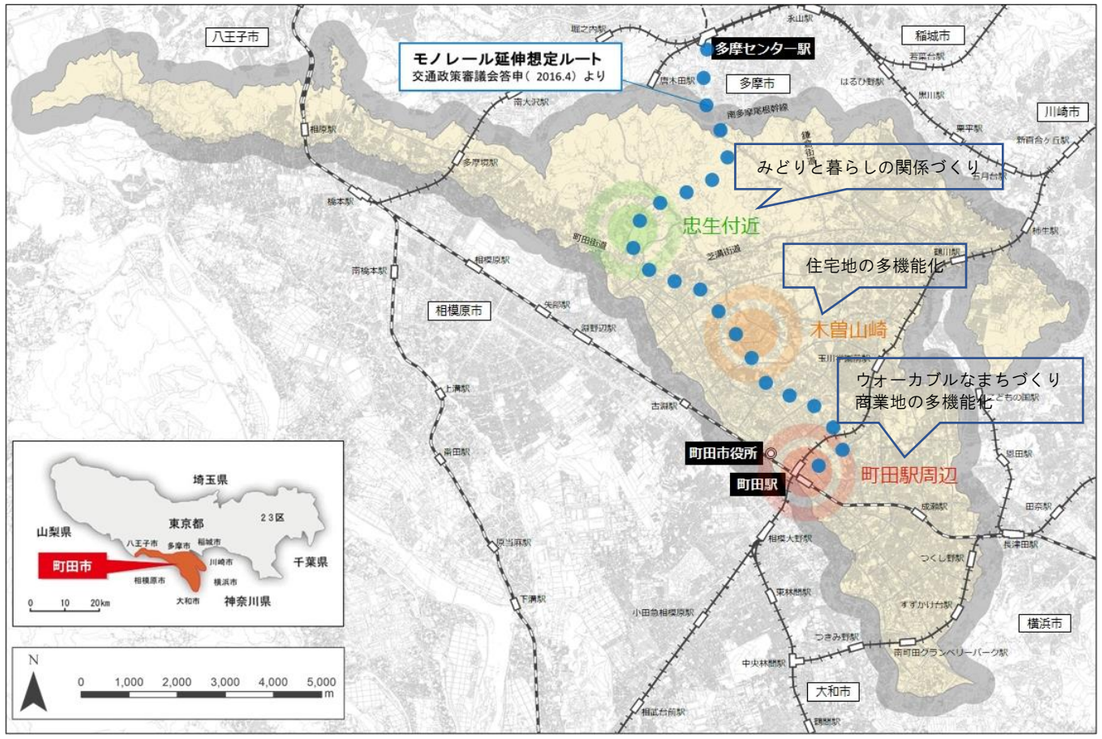


都市の骨格構造のイメージ

●次世代に向けて新たな暮らしをけん引する
３つのプロジェクトを検討

・都市づくりの多様な施策を連携し、町田市の新たな暮らしを効果的に実現していくために、具体的なプロジェクトを設定して取組む。

・町田市内では、今後多摩都市モノレールの延伸が予定されていることから、モノレール沿線上に「町田駅周辺」「木曽山崎」「忠生付近」の３つのプロジェクトを設定し検討する。このプロジェクトの実施により、モノレール沿線はもとより、町田市全体の暮らしの質を高め、暮らしたい・暮らし続けたいまちを実現していく。



個別パート編

●個別パート編の検討

・全体ビジョン編の暮らしの将来像や、都市の骨格構造を実現するために、各分野が実行するべき施策の方針を整理する。

・また、全体ビジョン編と併せて、各分野のマスタープランとして必要となる法定記載事項などを記載する。

都市計画編

●環境や暮らしの変化に合わせて都市の空間や機能を整える

●暮らしを支える都市基盤を整える

※「全体ビジョン編」と「都市計画編」を併せて、都市計画法第１８条の２に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として、**土地利用の方針、都市施設等の整備の方針**を整理する。

みどり編

●それぞれの暮らしに合わせて、みどりの中で過ごせる環境を整える

●さまざまな担い手とともに、持続できるみどりを育てる

●多摩都市モノレールの延伸を契機に、骨格的な水とみどりのネットワークを継承して保全するとともに、より利活用して地域の発展につなげる

※「全体ビジョン編」と「みどり編」を併せて、都市緑地法に基づく「緑の基本計画」として、**緑地の保全及び緑化の推進の目標・施策、都市公園の整備及び管理の方針**を整理する。

住宅編

●住宅ストックの適正管理と住宅地の新たな機能や要素の創出に取り組む

●団地から生まれ変わったコンパクトで便利に暮らせる住環境を整える

●ライフスタイルやライフステージに合わせて市内で住み替え、暮らし続けることのできる住環境を整える

※全体ビジョン編と併せて、住生活基本法に基づく住生活基本計画（市町村計画）、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づく「町田市空家０計画」、及び「町田市団地再生基本方針」として、**住宅や住環境に関する施策の方針**を整理する。

交通編

●市内と市外、エリア間をつなぐ「大きな・速い」交通を整える

●エリア内を快適に移動できる「小さな・ゆったりとした」交通を育てる

●さまざまな担い手がつながり、さまざまな手段を用いて交通を支える

※「全体ビジョン編」と「交通編」を合わせて、「町田市交通マスタープラン」、「町田市都市・地域総合交通戦略」、「町田市便利なバス計画」として**「モビリティ」に関する施策の方針**を整理する。

４．今後の検討の方向性

地区別パート編

●地区別パート編の構成

・地区別パート編には、市民が主体的に各地区で取組むまちをよくする活動から、地区単位のまちの将来像（ビジョン)を示す『市民主体型』と、駅前拠点や大規模公園、大規模団地の整備など、行政が重点的に施策に取組む地区において個別の方針を示す『行政発意型』の２種類を総合リスト化し、（仮称）都市づくりのマスタープランの一部として位置づける。

・街づくりの動向に合わせて、町田市域の中に街づくりエリアが島状に生み出され、エリアごとの街づくりが展開されることにより、市域全体が地区の特性を活かした街づくりの方針・ビジョンでアジサイ状に埋め尽くされることを目指す。

●「町田市住みよい街づくり条例」を改定し、市民主体型のまちの将来像(ビジョン)の枠組みを明確化

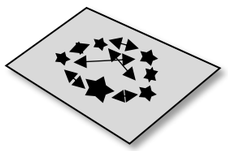
・『市民主体型』により作成するまちの将来像の具体的な枠組みや支援方法については、現行の「町田市住みよい街づくり条例」を改定し条例に位置づけるために現在、町田市街づくり審査会のもとに専門部会を設置し検討を進めている。

・（仮称）都市づくりのマスタープランの策定とあわせて運用開始することを目指す。

市民主体

地区の住民や地区内で活動する団体などがつながり、地区でやりたいこと、やり続けたいことなどを話し合いながら、実現したいまちの将来像をとりまとめる

地区でやりたいことなどを話し合う中で、市民のやりたい活動と地区がつながり、人と人、団体相互の新しいつながりや活動が生まれる



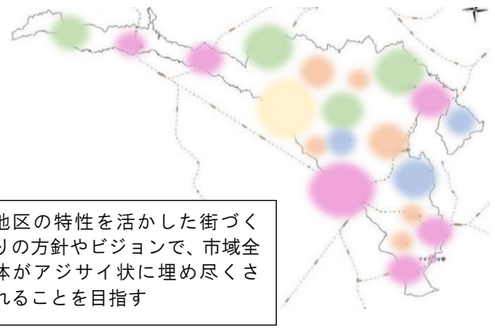
★は市民の活動、↔はそれぞれのつながりを示す

地区で展開される「活動」から、まちの将来像(ビジョン)ができる

行政発意

駅前拠点、大規模公園、大規模団地の整備などに関する個別方針

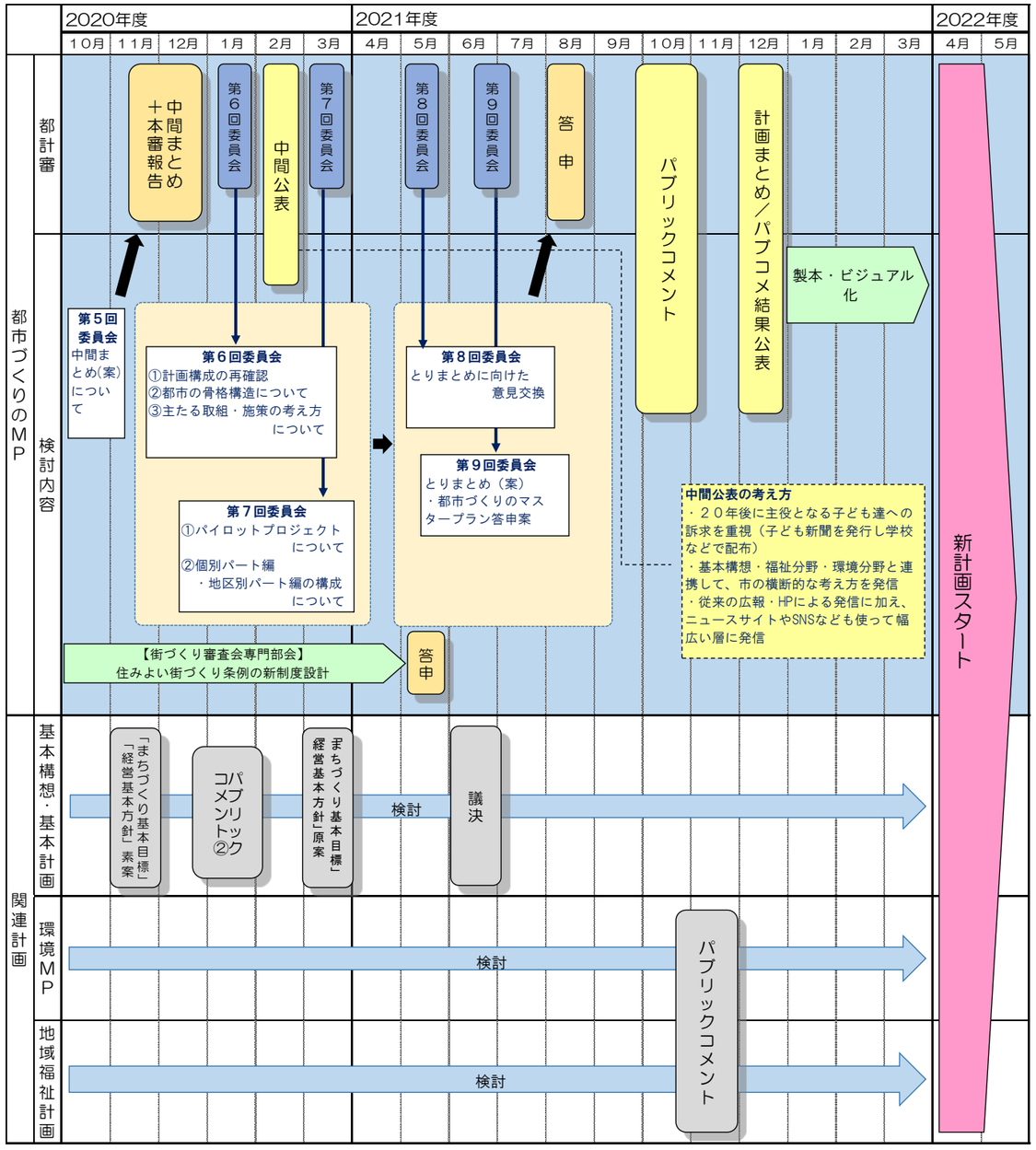
(仮称)都市づくりのマスタープラン【地区別パート編】



地区の特性を活かした街づくりの方針やビジョンで、市域全体がアジサイ状に埋め尽くされることを目指す

５．スケジュール

２０２０年１１月	都市計画審議会へ中間報告	特別委員会（第６～９回）
２０２１年　２月頃	中間まとめの公表（アイデア募集）	
２０２１年　８月頃	都市計画審議会へ最終報告	
２０２１年１０月頃	パブリックコメントの実施	
２０２１年度末	（仮称）町田市都市づくりのマスタープラン策定	



＜参考情報：町田市住みよい街づくり条例の改定の検討にあたり、条例が目指している街づくりのイメージ＞

～団体支援から活動支援へ～
まちを良くする「街づくりプロジェクト」支援

市民のやりたいプロジェクト・街づくりプロジェクトへの支援イメージ

全庁体制による支援

市民のやりたいことの
発案

＜個別のプロジェクト対象＞

●相談
・企画づくりに向け、発案者の相談に乗り、アイデアの提供、助言等を行う

＜全プロジェクト対象＞

●場・機会の紹介・提供
・活動をこれから考える人や活動を実施している人が情報交換できる交流会やシンポジウムの開催

交流会イメージ

【ポイント】
活動団体同士の情報交換をしやすくする

一緒に活動する
仲間づくり

【ポイント】
全庁による協力体制の構築、支援の強化

●人材・ノウハウ提供
・活動実施に向けて、企画に協力してもらえそうな地域団体の紹介を行う
・関連部署への橋渡しを行う
・企画相談にのり、助言を行う
・専門的な内容であれば、専門家派遣により助言を行う

企画完成

●場・機会の紹介・提供
・活動場所の紹介を行う

認定

【ポイント】
規約等が必要な団体認定ではなく、活動認定とすることで街づくり活動を促進

街づくり
プロジェクト以外

街づくり
プロジェクト

【ポイント】
街づくりプロジェクトの対象を充実・拡大

活動内容が街づくり条例に基づく「街づくりプロジェクト」と位置づけられたものを条例で支援

条例に基づく街づくりプロジェクト支援

街づくり
プロジェクトの
実施

●人材・ノウハウ提供
・街づくりプロジェクト発展・拡大に向け、新たな担い手の紹介や、専門家派遣により助言を行う

街づくりプロジェクトの
発展・拡大

●情報発信

＜仲間づくり段階＞
・活動に賛同し、一緒に企画立案・活動してくれる仲間の公募

＜企画段階＞
・企画への参加を促す広報(HP、SNS 等)を実施

＜企画実施段階＞
・企画(街づくりプロジェクト)の実施報告・今後の活動予定を随時発信(HP、SNS 等)

ホームページイメージ

【ポイント】
企画発案から実施まで一貫して情報発信

～ルール作りだけではない多様なまちの将来像の作成へ～
まちの将来像(ビジョン)の作成

まちの将来像（ビジョン）の作成

ビジョン検討の準備
・ビジョンづくりの仲間づくり
・ビジョンづくりの目的や検討の進め方等についての把握　ほか

【支援内容】
●相談
・進め方の相談、事例などの情報提供、地域内の団体等へ橋渡し

ビジョン検討組織の発足

●検討組織の認定、概ねの検討区域の確認

ビジョンの検討

●各団体が取り組んでいること、これからやりたいことなどの話し合い・共有
●まちの魅力・課題の共有
●地域住民との意見交換
●ビジョン案の検討

【支援内容】
●人材・ノウハウ提供
・アドバイザー等の派遣による支援
●活動資金の支援
・ビジョン検討に必要な活動資金の一部支援

ビジョン案の完成
・対象区域・目標、方針・具体的な取組み、ほか

ビジョン原案を地区住民等へ公表

ビジョンを策定

マスタープランへ位置づけ

まちの将来像（ビジョン）の実現
（ビジョンに記載した内容を実現するために、個々の取組みを実施）

自主的に実践する取組み
・これまで実施してきた活動の継続など、住民や団体が自主的に実践する取組み
市が継続的に支援
＊街づくりプロジェクトとして支援

公共空間を活用する取組み
・公園や道路など、従来とは異なる公共空間の活用をする住民や団体が実践する取組み
市が継続的に支援
＊街づくりプロジェクトとして支援

規制誘導を伴う取組み
・地区計画、景観形成誘導地区の指定など、関係権利者の合意形成必要な取組み
市と協働で実施
＊地区街づくりプラン(計画)の検討として支援